

小学生も理解を深めて

市では、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者「認知症サポーター」の養成講座を開催しています。多くの人に認知症について正しく理解してもらうため、地域の将来の担い手である小学生向けにも講座を開催しています。



紙芝居で分かりやすく解説

認知症になる

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなったりしたために、さまざまな障がいが起こり、生活に支障が出ている状態をいいます。

全国の認知症高齢者数は、平成24年10月時点で462万人を超え、65歳以上の人口に占める割合は約15%になるといわれています。また、その数は今後も増加すると見込まれています。

認知症になると、記憶障がいや

理解・判断力が低下するといった症状が表れます。そのほかにも、時間・場所・親しい人が分からなくなる、言葉が出てこなくなるなどの症状もあります。

認知症サポーターとは

認知症サポーターは、認知症サポーター養成講座を通じて認知症を正しく理解し、自分のできる範囲で認知症の人やその家族を見守る応援者です。

友人や家族に学んだことを伝えること、認知症の人やその家族の気持ちを理解しようと努めることもサポーターの活動です。

認知症サポーター養成講座

市では、平成18年度から認知症サポーター養成講座を開催しています。講座では、映像を交えて、認知症の症状や認知症の人への対応の方法などを学びます。多くの市民の皆さんが受講し、2、137人も認知症サポーターが誕生しています。

開催日は、「広報なりた」に掲載

します。講座を受

講した人には「認

知症の人を応援し

ます」という意思

を

を示すオレンジリングが配付されます。

小学生向けに易しく

認知症サポーター養成講座は、小学生や小学生親子向けにも開催しています。これまでに111人の小学生が受講しました。

小学生向けには、講師が紙芝居や寸劇などを取り入れ、小学生でも分かりやすく、また集中できるように工夫し、40～60分程度の講座を行います。

これまでに受講した小学生からは「認知症の人には特に優しく接してあげたい」「認知症の人のためにできることを家族にも教えた」となどの感想がありました。

出張での講座も

市内在住・在勤・在学の人で構成された5人以上の団体であれば、講師が出向いて講座を実施します。地域の集まり(町内会・老人会の会合など)、民生委員の集まり、ボランティアグループ、学校、会社などの団体で利用してください。開催を希望する場合は、希望日の4週間前までに高齢者福祉課に相談してください。

※くわしくは同課(☎20・1537)へ。



オレンジリングは認知症サポーターの証

を